

## 天災との闘い

台風の襲来 昭和三十八年八月襲来の台風九号は水位十二・四米という異常出水を来し、保育園、公民館をはじめ町内の床上浸水二二九戸を数える被害があり、損害額は二億三千六百万円にも達した。ついで四十五年八月の台風十号は高知市を中心に大出水に見舞われ、本町でも仁淀川の氾濫による被害があった。しかし何と云って

も五十年八月に襲来した台風五号で、主として高知県中西部地帯に尨大な被害をもたらした。越知町では死傷者三十余名をはじめ家屋全壊三十戸のほか道路橋梁等に甚大な損害を及ぼした。(詳細は災害の項) つづいてその翌年九月台風十七号の襲来を見たが、前年に未曾有の被害を受けていたため被害そのものは少なかったが、連続災害に精神的打撃の方が大きかった。

復旧への努力 この災害復旧は直ちに応急対策を施すと共に、町職員挙げて被害調査と実地測量、設計に取り組み、なお県内町村のほか遠く県外の応援を得て国の査定を受け、町内外の建設業者に発注して復旧工事が行われた。これがため一時町行政の他の部門はストップした状態となり、職員は一丸となって奔命していた。また災害復旧費は応急工事を含め五十一年度は十三億余円となり、決算総額の実に五〇%を超え、五十二年度の七億八千八百万円もなお決算総額の三五%強を占めている。そして五十三年度三億三千四百万円、一五%弱となり、漸く台風五号による災害復旧が終りを告げた。

## 公共施設の建設進む

庁舎建設と小舟住宅団地 大越知町のシンボルとして早くから計画されていた役場庁舎の新築は四十六年十二月漸く起工式を挙げ、翌年八月鉄筋コンクリート三階建、二二七〇平方メートルの堂々たる建物が完成を見た。ついで五十年には越知保育園が改築され、五十一年に入って町として初めて自衛隊を導入して小舟に団地造成工事が行われた。そして五十三年度より計画に基き鉄筋コンクリート四階建の住宅が順次建設され、五十八年二月までに四棟八十戸が完成を見て、あと一棟の計画を残すのみとなっている。教育施設では町内小・中学校の改築と屋内体育館・プール等の整備など一部統合に伴う新築や寄宿舎施設などが、年次計画に従って五十八年度までに一わたり終り、(詳細は教育の項参照) 郡部で数少ない町立幼稚園も新築されて五十五年度より開園してい

第8章 福祉・衛生・災害

災 害

越知町風水禍災害史

文明 4・8・9 (一四七二) 仁淀川大洪水 今成で死者二七名家十八軒、牛二頭流失とある。

寛文 6・7・4 (一六六六) 仁淀川大洪水 鎌井田、貢大明神流される。

元禄 5 (一六九二) 仁淀川大洪水 宮ヶ奈呂門別神社流される。

天明 8・6・15 (一七八八) 大暴風で各所に山潰が起き前代未聞の大災害が起きた(横阜山崎家記録による)

文化 12・7・6 (一八一五) 仁淀川大洪水(亥の大変)と云う。堤防の決壊人家の流失(一八一戸)死者(八

三名)

嘉永 2・7・9 (一八四九) 仁淀川大洪水(酉年の大水)という。越知下渡しの西俊治家の床上一米位まで上

昇し家の中へ大舟を引き入れ家財道具を運んだと伝えられている。

明治17・8・25 台風九州中部より周防灘へ 死者(一七九八名)、越知村も午後六時より十時頃まで暴風止む事なく、瓦を吹き飛ばされる家数知れず、全倒(六戸)を数える大暴風

明治19・9・10 横島村辺より越知、黒岩の諸村も倒れる家倒れる樹木、その数を知らず、且つ、越知、黒岩へは、仁淀川の水溢れ、流失の家屋も多く、人畜にも、死傷あり、実に嘉永西の年以来の水難にて、豊熟の稲、大小豆、楷草、芋の類も水を被りて腐敗し、風吹き破れて、枯死し取り入れるものとなしと、新聞で報じている。全倒家屋、下渡場で(六戸)そのうち一人が圧死している。文徳で(二戸)、出水は越知小学校迄押し来たり、肩を没する迄に至る。また三区の某家納屋の屋根は一かたまりのまま東へ百五十米も吹き飛んだ。今成の松林へは材木千余本流れかかり、商家岡林斧兵衛宅は小高き所なるも、水はその二階迄に至り、家族は山へ逃げ上り店の雑貨百五十余品は全部流失す。

明治23・9・11 台風九州四国を横断し、死者(二一三名)不明(三名)を数える(全体)。

旧7・27 二百二十日に当り、雷強く、前代未聞の大洪水にて、井堰は一ヶ所も切れぬはなく、佐川、越知、名野川、池川、狩山等家屋の流失多く田地の傷み筆舌に尽しがたとある。大桐村案内によると、島古味庄吉方、床上浸水二尺五寸に及ぶ、川辺の田畑、損害無量にして、桐見川より越知迄の間は道路なき、磧を自由に人馬の交通が出来たという。その際大桐村役場は流失し、川に沿いたる道路の流失も二十五町余に及び、之が修繕費として金二百五十三円五十七銭を官より下附されたとある。

明治27・9・11 朝台風、宮崎海岸を北上して、米子に抜ける、雨量越知(三一三ミリ)仁淀川大洪水被害大

明治28・8・22 台風、須崎に上陸北上

明治28・8・24 台風鹿兒島、桜島を通り、北九州を北上、雨量越知(二四五ミリ)その他、九月上旬、十月月上旬にも台風被害あり。

明治32・7・8 台風鹿兒島から、ゆっくり北上し、佐田岬を通る、仁淀川大洪水

明治32・8・28 台風、県西部に上陸、大豪雨、明治村庄死(一名)越知村庄死(一名)全倒家屋(三五戸)半

倒(二〇戸)大破(三〇戸)

明治32・9・21 台風九州西岸を北上する、雨量二十日(三六〇ミリ)二十一日(四二二ミリ)この年の県下の

死者(二〇四名)傷者(一九二名)全半壊戸数約一万戸といわれる、大被害

明治38・8・16 台風、天草から別府を通り、呉へ、雨量、越知(三二一ミリ)

明治40・7・18 台風足摺岬に上陸し、山口県にぬける。雨量越知(二四二ミリ)、この時文徳堤防の決壊の為、西高見、室屋、堂ノ前の田一面が川原となった。又今成の高見芝、馬廉、堂岡の耕地も大部分流失した(古老

の話)

明治40・9・7 台風、九州西岸から、山口県に進む、ゆるい速度で大兩台風、雨量越知(四〇二糎)堤防決壊

(二ヶ所)延長(二十間)道路の破損(十一ヶ所)延長(百四十間)橋梁流失(一ヶ所)田畑の浸水(一五町)

明治41・8・10 雷雨台風、土佐沖通過のあと、小低気圧停滞し、大雷雨になる、雨量越知(三九八糎)十一日夜迄続き、越知大出水、尚二十四日に東支那海をゆっくり北上した、台風の影響で降雨日数約二十日もあり、その間越知の雨量(一、六三〇糎)と異常、十一日午前一時出水最高越知町は平水より、二丈五尺余の出水浸水家屋(五二戸)浸水田(五十町歩)畑(十五町)宅地(一・一町)その他(八反)計六十六・九町歩、山崩れ(三ヶ所)坂折川橋、中間(九間流失)

明治44・8・15 台風、鹿兒島から八幡浜近くを通過する。雨量越知(三一八糎)越知町市街地は高地なるにもかかわらず、六十三年以来の大洪水にて(嘉永二年大洪水より六七糎下)仁淀川、坂折川共に三丈八尺余の出

水床上浸水家屋(四十八戸)流失(六戸)半倒(一戸)浸水(五三戸)電柱倒れ、電話、電報不通となる、幸人善に死傷なし、意外の俄水により、商品、家具等搬出する暇なくして、水に浸せしもの多く、増水のため二階に避難して、船の救を呼ぶ等その光景慘憺たるものであった。又秋蚕最盛期にて、桑の被害甚大で、皆放棄の止むなきに至る。

大正7・7・12 台風豊後水道を北上する。二日間連続の大雨となり、仁淀川大洪水、雨量、名野川(五六六耗)堤防決壊する。全半壊(一三一戸)流失(二五戸)

大正9・7・24 台風、須崎附近に上陸。

同年 8・15 台風、足摺に上陸、雨量、越知三日間(六〇四耗)大洪水、県下の死者(一八六八)全半壊(六五二戸)

昭和2・8・26 豪雨二十七日まで続き、日雨量仁淀川の上流で(六〇〇耗)となる。吾川、高岡郡では明治二十三年以来の大洪水といわれる。死者(五十名)行方不明(八名)家屋全半壊(一〇五戸)同流失(七戸)浸水(二四六六戸)堤防決壊破損(四八ヶ所)道路(三〇八ヶ所)橋梁流失破損(二四〇ヶ所)田畑流失埋没(一三三八町歩)等及び大被害あり(明治村の歩み参照)

土木の損害額

	道路	橋梁	河川
明治村	二八、〇五〇円(一、八七〇米)	五、二〇〇円	一〇、一五〇円
横島村	四、〇〇〇円(六四〇米)	一〇〇円	五、〇〇〇円
越知町	五三〇円(一二〇米)	一、四三〇円	七、〇〇〇円
佐川町	一八〇円(五〇米)	五四五円	二〇、二七一円

黒岩村 三、九二〇円(二九五米) 一五、六三〇円 七九、八〇〇円

昭和3・8・18 台風土佐清水付近に上陸、仁淀川上流大雨となる。

昭和3・8・29 台風九州東岸を北上する。二十十日を控えて二十八日以来の雨が二十九日夕刻に至り、俄然暴風雨と化す、越知町坂折橋三十日、午後四時半頃流失、浜永省馬外二名行方不明となる。田畑の被害甚大

昭和9・9・21 室戸台風奈半利に上陸、大台風、全国的に影響及ぶ、死者(二、八六六八)不明(二〇〇〇人)

県内の死不明(一二二人)全壊(一九五六戸)半壊(二、五六五戸)流失(九二三戸)仁淀川大洪水、越知の雨量二九三・五耗(越知の被害不明)

昭和10・8・28 台風清水付近に上陸、Aクラス、仁淀川大洪水死者吾川郡(二名)高岡郡(三名)県下(十六名)傷者(七十二名)

昭和18・7・24 台風豊後水道を北上する。

昭和21~24までの連続雨量越知(七八二耗)

昭和20・9・17 枕崎台風枕崎より米子へ抜ける猛烈な台風で仁淀川大洪水。吾川村猿橋ダムに接続する山崩れの為貯水氾濫し仁淀川の増水急激を加え越知下渡しでは嘉永二年酉年洪水より尚水位二十四糎上昇、未曾有の大水となり、今成では二階迄浸水、その直後悪天候続きで畳の乾く間もなく使用不能となる。役場前の農協倉庫でも政府貯蔵米も床付き一俵どおりは浸水し配給米として処分、明治の片岡でも二階迄浸水及び数戸床上浸水した。

昭和20・10・10 阿久根台風10日までの雨量越知(五七八耗)

昭和21・7・29 台風豊後水道から愛媛県西部を掠めて北上する。越知雨量(五三六耗)越知町、住家床上浸水(三五戸)二戸半壊

昭和21・12・21 南海大地震全県下被害大、津波火災発生、死者(六七九) 負傷者(一、八三六) 倒家(四、八三四) 半壊(九、二九二) 流失(五六六) 焼失(一九六)

昭和24・8・17 台風9号、雨量越知(五七九耗)

昭和25・7・28 " (二三八耗)

昭和26・7・1 台風6号、雨量越知(二五二耗)

昭和30・8・29 大雨低気圧 " (三六五耗)

昭和31・9・25 台風15号、仁淀川大増水

昭和32・8・20 台風7号、九州西方海上北上、仁淀川上流区域大雨集中、越知最高水位(七、八米)

昭和32・9・20 台風10号、四国北西部を通過、雨量越知(一九七耗) 最高水位(八米)

昭和34・8・8 台風6号、四国の南端を通過、雨量越知(六七五耗) 最高水位(七米)

昭和35・8・29 台風16号、宇佐付近に上陸、北上二十八日夜から強風雨、木倉三世帯避難、水位(七・三米)

昭和36・9・16 台風18号(第二室戸台風) 室戸岬に上陸海岸沿いに北東進した最大級台風、仁淀川大洪水、長者(七三四耗) 池川(六六五耗) 瞬間最大風速(七四・六米)

昭和38・8・9 台風9号(別途記載)

昭和41・8・16 台風13号、集中豪雨、住家床下浸水(十八) 軽傷(一) 坂折橋流失

昭和43・9・24 台風16号、最高水位(七・五米) 避難(九戸三三名) 片岡橋一部流失

昭和45・8・21 台風10号(大型) 佐賀町に上陸(別途記載)

昭和46・8・5 台風19号、大型台風九州西海岸をゆっくり北上、九州北部を縦断、県西部暴風雨圏内、宿毛風速(三六・二米) 仁淀川洪水、死者(二名) 本町避難命令(二世帯九名) 橋(二ヶ所) 道欠(一ヶ所)

昭和46・8・29 台風23号、最大級に発達し鹿児島県大隅半島に上陸後足摺半島、再上陸南国市に再々上陸、雨量池川(四五四耗) 県全体強風豪雨、死者(三名) 本町床上浸水(二戸八名) 道路災(十二ヶ所) 水路(三ヶ所) 河川(三ヶ所) がけくずれ(一ヶ所) 避難(十七世帯五八名)

昭和47・7・24 台風9号、本県西部をかすめて、宮崎大分県境に上陸、道路(五ヶ所) がけくずれ(四ヶ所) 避難(三戸十三名) 筏津ダム放水(三、六二〇t)

昭和47・9・1 台風16号、住家一部破損(八〇世帯一五〇棟) 道路(一八) 河川(一) がけくずれ(二)

昭和47・9・7 山間集中豪雨、越知佐川落雷、停電七千世帯、道路(九) 橋(一) 水道(二) がけくずれ(二)

昭和50・8・17 台風5と6号(別途記載)

昭和51・9・9と13 台風17号、西日本全域に及ぼす大型台風、高知県豪雨、仁淀川大洪水、本町被害、道路(六七ヶ所) 橋梁(二ヶ所) 河川(二八ヶ所) がけくずれ(三ヶ所) 二億八千八百万円の被害

昭和52・8・24 台風7号、道路(二六ヶ所) 橋梁(一ヶ所) 河川(一〇ヶ所)

台風九号(昭和三十八年八月九日)

四国南方海上を北に西進、暴風雨の最強時九日十九時頃、八九の連続雨量越知で(五四九mm) 九日、日雨量(三九七・七mm) 最大風速(二十五米) 毎秒(七、五〇〇t) 水位(十二・四米) と、まれにみる、仁淀川の大洪水で保育園、公民館はもとより、越知小学校校庭迄浸水という異常出水であった。

災害救助法が越知町等十四市町村に適用される。

被害の状況

全壊(三戸) 半壊(九戸) 床上浸水(二二九戸) 家屋等の被害(二、四三六万円) 有線(五〇五万) 森林土木

## 第8章 福祉・衛生・災害

昭和五十年八月十六日夜半から十七日にかけて襲来した台風五号は、未曾有の大災害をもたらした。台風の残した傷痕は、あまりにも深く、死者五名、重軽傷者二十六名、全壊家屋三十世帯（一〇六人）半壊十七世帯（五一人）床上浸水二十世帯（六七人）と人命と住家に与えた被害は甚大で、道路・橋梁・河川等の災害も三十数億円に及ぶもの。十六日夜九時から十七日夜九時まで、日雨量六八〇ミリ時間雨量一一六ミリ（日雨量八〇ミリ、

## 魔の台風五号

（四、六〇〇万）耕地災（一、四二〇万）農業関係（二二、〇二二万）町道災（一、〇〇〇万）商工関係（一、四七〇万）その他（一四五万） 合計二億三千五百九拾七万円

大型台風十号（昭和四十五年八月二十一日）

午前八時佐賀町に上陸、広島東方を日本海に抜ける、最大風速室戸六四米、高知五四米、仁淀川氾濫水位七・八米（沈下橋）災害救助法適用、越知町など二十六市町村

被害の状況（単位千円）

重傷（二）軽傷（八）全壊（十三世帯四六人）半壊（五四世帯一八四人）一部破損一、九八〇（七、四三七）非住家、公共建物（十二棟）その他（三五〇棟）冠水 田（四二・五ha）畑（四一・五ha）文教施設（一〇）病院（二）道路（一〇）橋（二）がけくずれ（四）通信施設（八〇〇箇所）

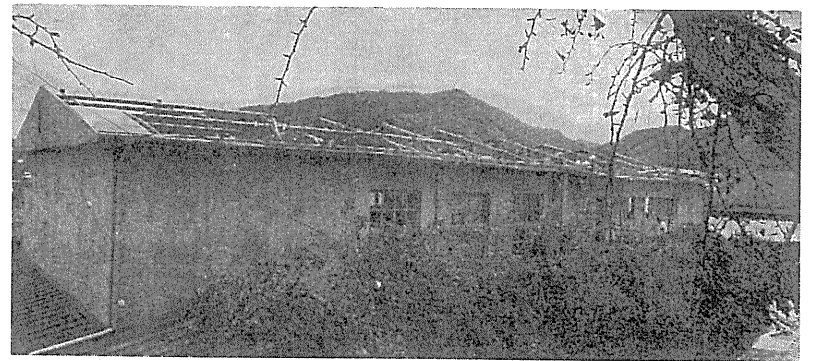
公立文教施設（一〇、八五三）農林水産業施設（一七、七〇〇）公共土木施設（八、九三〇）その他公共施設（二、〇三五）農産被害（二六〇、〇八五）林産被害（三〇〇、〇〇〇）畜産被害（四八七）水産被害（二五〇）商工被害（二六、八七三）その他（五四、一二三） 被害総額（六八一、三三六）

## 魔の台風五号

昭和五十年八月十六日夜半から十七日にかけて襲来した台風五号は、未曾有の大災害をもたらした。台風の残した傷痕は、あまりにも深く、死者五名、重軽傷者二十六名、全壊家屋三十世帯（一〇六人）半壊十七世帯（五一人）床上浸水二十世帯（六七人）と人命と住家に与えた被害は甚大で、道路・橋梁・河川等の災害も三十数億円に及ぶもの。十六日夜九時から十七日夜九時まで、日雨量六八〇ミリ時間雨量一一六ミリ（日雨量八〇ミリ、



昭和38年台風9号  
旧越知国バス駅前の浸水



昭和45年台風10号による中央公民館の被害

時間雨量二〇ミリ以上災害対象」という異常さである。町の災害対策本部は、徹夜で警戒十七日夕方からは電話線もほとんどが、不通となり交通は各地で寸断され被災の状況も十分把握できない状況であり、十八日朝から全職員が手分けして、被害の調査に繰り出したが、なにしろ横島本村の農免道及県道並に放水口の県道等地区入口は、ほとんど通行できない状況で車は勿論使用できず、徒歩でテクテクの調査では「ラチ」があかず、十九日に



昭和50年台風5号による宮ヶ奈路災害



昭和50年台風5号による倉良部落の被害

は、議会も放って置けぬと災害調査に、そして全町民一丸となって対応する。次第に全容がわかるに従って、その被害の大きさ、恐ろしさに、唯々呆然となるのみである。救助の一端を記し当時の生々しい実態を紹介する。

なかでも、倉良、宮ヶ奈路の被害は特に大きく、交通・通信途絶の中で十八日午前十時頃、県災害対策本部より無線電話で、宮ヶ奈路では、家は全滅、死者二人、重軽傷者十人位という情報が町災害対策本部へ連絡あり、直ちに、県本部を通じて自衛隊の「ヘリコプター」による救助方を要請するも、ヘリの着陸地点が不明であり、併せて悪天候のため、「ヘリ」は飛べない状況であった。早朝より明治地区被害調査に派遣した職員からは連絡もなく、引き続き消防署員による救助隊の派遣方を要請し、午後二時出発する。午後八時頃町職員から消防署員とともに「現地より一キロメートルの地点まで、たどり着いたが、夜間で危険なため進めず、黒瀬部落へ引き返して宿泊する」旨の連絡あり、黒瀬部落の者よりの状況連絡によると、十五世帯の内十三世帯全壊、二人死亡重軽傷十三名、宮ヶ奈路に通ずる道は、すべて不通との報告あり、自衛隊の「ヘリコプター」による救出について、県本部を通じ、深夜にかけて連絡を取り合った結果、十九日十時頃「ヘリ」による救出をする旨の連絡あり、現地派遣の消防署員に「ヘリ」の着陸地を求めて表示するよう指示する。(宮ヶ奈路の前の田畑が流失し、川原になっており、その地点を着陸地とする。)十八日深夜鎌井田部落の負傷者の内二名重体との連絡あり、併せて自衛隊「ヘリ」による救出方を要請するとともに、宮ヶ奈路派遣の消防署員に連絡、鎌井田下流の日ノ瀬の川原に「ヘリ」の着陸地を表示するよう指示する。十九日早朝それぞれの箇所に準備完了の連絡あり、自衛隊に報告直ちに救助活動にはいる。鎌井田二名宮ヶ奈路十五名計十七名午後三時救助完了。この間明治地区の被災状況、負傷者の救助、救出についてのすべての連絡に連日昼夜をわかず、状況連絡にご協力いただいたハム仲間(アマチュア無線家)の京仲部落の岡利男、二区北川省一郎、四区小田電気店、九区西森満征さん等に厚くお礼

## 越知町の火災

火事程恐ろしいものはない、一瞬にして灰と化す、主な記録を拾って見ると

文明十四年（一四八二年） 三嶽総山の大火に始まり

元禄十一年（一六九八年） 片岡城下二の丸以下の大火

明治三十年七月 越知村西町裏通りの大火（三戸全焼）

明治三十八年十二月 堂岡小学校全焼

大正十一年十二月 越知天理教会四戸全半焼

越知製材の火災（年月不詳）

昭和元年 建沼酒店、昭和四年三福製紙工場

昭和九年 大桐村役場の全焼

昭和二十一年 桐見川潰野の大火（四世帯十一棟全焼）

昭和二十九年 大桐農協の火災となっている。

以下火災出動記録による。

昭和三十二年 谷ノ内の住家全焼他二件と山火事一件の計四件

昭和三十三年 六区住宅一区住家全半焼ボヤ一件の計三件

昭和三十四年 野老山頭白の三世帯火災他六件計七件

昭和三十五年 谷ノ内住家全焼外三件、山火事三件の計七件

昭和三十六年 建物火災二件、山火事四件計六件

昭和三十七年 三区及び南ノ川の住家全焼及び建物火災二件と山火事二件の計六件

昭和三十八年 山火事一件

昭和三十九年 八区と京仲及び一区の住家等の全半焼他ボヤ二件と山火事一件の計六件

昭和四十年 佐の国三棟二世帯山室一棟全焼横島外一件、一部火災、山火事四件の計八件

昭和四十一年 野老山小学校の大火及び他三件の計四件

昭和四十二年 一区と谷ノ内の住家全焼三棟他三件と山火事三件の計八件

昭和四十三年 桑藪（二世帯）横島、清水、越知で三件の火災、山火事四件の計九件

昭和四十四年 六区の大火（四世帯）と山火事二件の計三件

昭和四十五年 三区の住家全焼、他ボヤ一件と山火事四件の計六件

昭和四十六年 建物一部火災三件山火事四件の計七件

昭和四十七年 五区の大火（五世帯）桑藪の大火（四世帯八棟全半焼）その他建物火災六件と山火事二件の計十件と多い。

昭和四十八年 清助の住家（三棟）全焼他建物火災二件の計三件

昭和四十九年 五区の大火（六世帯八棟全半焼）他谷ノ内、加枝ヶ谷で住家火災外六件の火災と山火事二件の計十一件と非常に多い。

昭和五十年 深瀬で住家全焼（二棟）外一件と山火事一件の計三件

昭和五十一年 桑藪桐ノ峠火災（二世帯九棟全焼）建物（一部）火災三件その他、一件、山火事二件の計七件

昭和五十二年 金峰園物置小屋全焼外三件と、その他二件、山火事二件の計八件

昭和五十三年 今成（二棟）及谷ノ内（四棟）住家全焼及び外に建物火災三件、その他二件山火事一件の計八



件

昭和五十四年 片岡の住家火災外一件（一部）その他四件の計六件

昭和五十五年 仲川内の住家全焼、その他四件と山火事一件の計六件

昭和五十六年 薬師堂（四棟）全焼、野老山、中大平各一棟を全焼、桑藪一棟半焼その他一件の計六件と平均

六件余の火災が発生している。

桐見川潰野の火祭り（旧四月十二日）

潰野部落は何時の頃か定かでないが、昔大火があつて、その日が旧四月十二日で以来旧四月十二日を潰野部落の火祭りとして祭っていたが、戦時中、酒が思うように手に入らなくなったので祭りも中止していたが、奇しくも、その日昭和二十一年旧四月十二日、十一棟が焼失する大火があり、祭りを復活し現在に至っている。